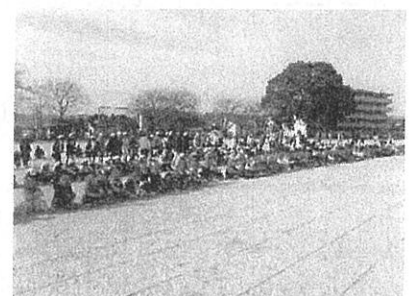


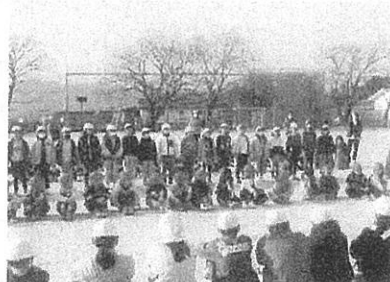


6年生を送る会

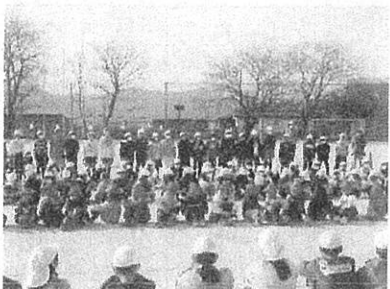
3月14日(木)、6年生を送る会が行われました。卒業式に出席できない1年生から4年生までの子どもたちにとっては、6年生に感謝のメッセージを伝える最後の会になります。運動場での開催になるので、お天気が心配されましたが、とてもポカポカしたよい天気でした。



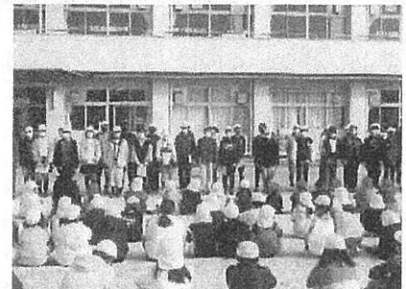
司会進行は5年生が行いました。6年生が拍手の中入場してきて、いよいよ6年生を送る会の始まりです。お迎えする1年生から5年生の子どもたちも、この日のために何度も運動場で準備をしてきました。



1年生から順番に、感謝の言葉を呼び掛けていきます。入学式のこと、登校班のこと、運動会での様子、由布川っ子祭り、クラブ活動、委員会活動・・・6年生が活躍したり、お世話を焼いてくれたりしたことが、走馬灯のように思い出されました。



5年生からは、感謝のメッセージカードが渡され、その後は由布川名物の〇×クイズとじゃんけん大会で過ごしました。〇×クイズは全問正解者がなしという驚きの結果に…じゃんけん大会は4回やってすべて勝った子どもが10名ほどいました。



最後は、6年生からお礼の言葉と、卒業式で歌う歌「僕らまた」の披露がありました。非常に和やかな会でした。企画してくれた5年生、ありがとうございました。

回 詩 由布川っ子

由布市立由布川小学校
学校通信 第54号
令和6年3月19日(火)
文責 校長 森次 晃

6年生と最後の授業

先週6年生と最後の授業をしました。本校に勤務してから3年目になりますが、卒業生とはずっと、卒業前に授業をしてきました。今回も詩の授業を行いました。

題材は私の好きな「あいだみつを」の詩です。

この授業では、国語としてのめあて「詩の中身を具体的なエピソードにしてみる」ということと、あいだみつをさんの2つの詩のメッセージをうけて、「中学校生活にむけての心構えを作る」という、2つのめあてをもって授業を構成しました。

「詩の中身を具体的なエピソードにしてみる」と、より深く詩の意味を実感することができます。最初の詩はエンジンという詩です。

あのね 自分にエンジンをかけるのは 自分自身だからね

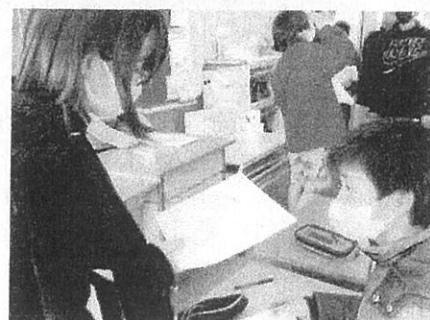
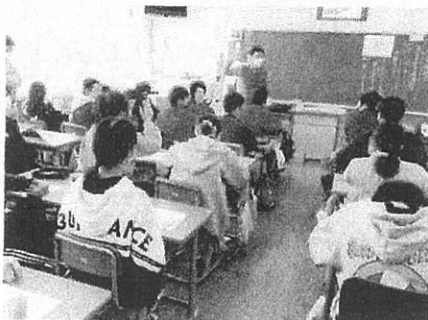
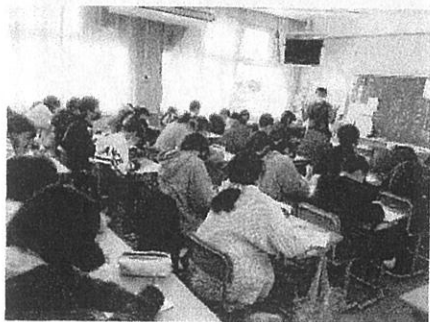
この詩をもとに、自分がエンジンをかける時、そして中学校に行ったときエンジンをいつかけたらいいのかということを考え、出し合いました。私が今エンジンをかけるのは、冬の寒い朝、布団から出るときなんだよね。と例を出すと、「おんなじやー」と賛同してくれる子がいたり、中学校ではやっぱり「勉強や部活の時、エンジンをかけんと」という子がいたりして、交流する中でエンジンのかけ時も、人によって違うことがよくわかりました。印象深かったのは、「やっぱりエンジンは、人にかけてもらうのではなく、自分でかけた方がいいな。」という感想を持った子がいたことです。その次の詩は、

しあわせは いつも じぶんのところが きめる

という詩を考えました。

この詩をもとに、自分がしあわせを感じるのはどんな時か、また、中学校ではどんな時にしあわせを感じたいかということを考え、出し合いました。

一人ひとり、しあわせを感じる時も、かなり子どもによって異なっていました。そして、中学校では多くの友だちをつくることで、しあわせを感じたいという子が多かったです。1組も2組もワークシートの最後に丁寧な振り返りをしてくれて、授業してよかったなと思いました。(写真は6-1の様子、6-2写真撮ってなくてごめんなさい)





感動の卒業式

3月22日(金)、感動の卒業式が執り行われました。

一言でいうと、思いのこもった式。6年生の保護者の、5年生の、そして私たち教職員の、式に参加したすべての人が、いろんな思いを込めて行われました。



5年生のコールで卒業生の入場が始まります。開式の言葉、国歌斉唱の後はいよいよ卒業証書の授与です。卒業証書の授与では、私(校長)としっかり目を合わせて、授与を行いました。壇上から降りると、証書は保護者に渡します。緊張の中にも温かみのある時間でした。



証書授与の後は、校長の式辞、教育委員会の告辞、来賓の祝辞・紹介、祝電披露と続きます。私にとっては非常に緊張する時間です。由布市から祝品として証書入れとボールペン、そして卒業生からは記念品としてワイヤレススピーカーを頂きました。感謝です。



締めくくりは5年生による「送る言葉」と6年生の「別れの言葉」です。今までの練習の中で一番良かったです。5年生は前日から、丁寧に会場準備を行い、6年生への思いが今日の姿につながっていました。大変立派でした。6年生も精いっぱい思いを歌や言葉に込めていました。一人一人の真剣な表情が忘れられません。ありがとうございました。



*卒業式では、最近はやりの着物姿の子どももいました。県内でも一部地域は規制がありますが、由布市ではありません。現状、半分から3分の2程度のお子さんが着物です。

服装の判断はご家庭それぞれになります。他の家庭と比べることなく、子どもとよく相談してほしいと思います。



1年間ありがとうございました。

今年度はこの号で最後になります。ご愛読ありがとうございました。明日の修了式で、1年間をしめくくることになります。子どもたちは、この1年間ですいぶん成長しました。特に高学年は、卒業式に向けての取組の中で責任感と向上心が伸びたと思います。

特に、本校の子どもたちに感じる誇らしさを伝えると、

①授業・作業等いろんな取組を一生懸命に行う。

授業中の様子をよく見て回りますが、どのタイミングでみても、ほとんどの子どもが授業にきちんと向き合い、楽しそうにしていたり、掃除を懸命にしていたりする姿が見られます。このことは、なかなかできることではありません。よく成長しているなど感じる部分です。

②上級生が下級生の面倒をよく見ている。

登校班の時や、1年生が入学してきた時の休み時間など、上級生が下級生の面倒をととてもよく見ていると思います。昔からあった伝統とは思いますが、よくその伝統が引き継がれております。

③運動場でよく遊んでいたりと、図書館の本をよく借りたりしている。

休み時間では、あまり遊具がないにもかかわらず、ひたすら走り回っていたり、毎日のように図書館で本を借りる子が多いと思います。

・・・他にもまだまだいい点がいっぱいあります。「校長せんせー」と個人的に声をかけてくれる子も多かったです。

一方で、次年度に向けての課題といたしますと、

①あいさつ

このことは、ずっと言い続けてきたのですが、特に朝の挨拶が今一つだと感じます。中にはとても素晴らしいお子さんもいますが、全体的にはもうちょっとです。あいさつは自然に行えて、その良さが実感できないと次につながりません。来年度、自然な挨拶ができればと思います。

②チャレンジ精神

これも個人差はありますが、失敗を非常に恐れる傾向が強いと思います。失敗してこそ成長があります。慎重なのと、失敗を恐れるのは似ているようで違います。慎重に準備を積み重ねながらもやる時は大胆にというのが理想です。

③判断力

このことも、何度も言ってきました。判断基準のすべてが、「みんながしているからいいだろう。」となるのでは困ります。他人の様子を見るのは、判断基準の一つですが、最終的にはその時の状況を客観的に見て、判断するようになってもらいたいです。

・・・ここで上げた課題は、繰り返しますが、すでにできている子もいます。あくまでも全体的な傾向です。来年度意識して実行できるといいと思います。



*卒業式より 卒業生からおうちの方へ
本当にありがとうございました。